

2002年は第二世代テレマティクス事業元年 1570台のタクシーを使ったITS実験を実施

2002年は第二世代テレマティクス事業元年となる。テレマティクスとは情報通信を利用した自動車用の情報システム全般を表す言葉で、具体的なアプリケーションサービスとしては遠隔車両監視や地点情報配信などが該当する。今年、日産はCARWINGS、トヨタはG-BOOKと呼ばれるテレマティクスシステムを導入する。それぞれ、コンパスリンク、MONETの世代交替を意味する第二世代のテレマティクス事業であり、日本においては情報通信を利用した自動車情報化の動きの活発化が見てとれる。一方で、諸外国はこのような先進的な日本の動きに注目しており、日本でのテレマティクス事業が成功しなければ、しばらくはこの分野は後退するとの見方が強い。

IPをフル活用した製品は少ない

現在、カーナビゲーションシステムではインターネット接続を謳った製品が多く存在している。これらの製品は、主にウェブ閲覧機能および電子メール機能を中心に構成されている。誤解を恐れずに辛辣な言い方をすれば、カーナビゲーションシステムに付加価値をつけるため、苦肉の策でこれらの機能を付加したに過ぎず、インターネットを十分に活用した製品とは言い難い。メーカーも利用者もより意味のあるインターネットの利用方法を模索している段階と言えるだろう。

また一方で、NTTドコモのDoPaやKDDIのCPA (cdma packet access) を利用しているために、図らずもIP対応になってしまった製品も多く存在する。このような製品は運航管理などの事業者用のシステムに多く見られる。これらの製品はIPを単なる通信路としてとらえており、IPを利用しているとはいえ、事業者内に閉じたシステム運用を行っている。

国内においては、無線通信やカーナビ

ゲーション、インターネットの普及が進んでおり、すでに「日本でテレマティクスが成功しなければ、他国においても成功しない」と言われるだけの土壌ができています。このような土壌を有効に利用した製品の登場を待ち望みたいものである。

ITSが目指す情報化社会

昨年度は、インターネットITS (Intelligent Transport System) と呼ばれる分野の、自動車をインターネットに接続した実験が数多く行われた。インターネットITSでは、この情報通信部分にインターネットを利用することにより、人間の生活する情報社会とシームレスにつながった自動車環境の実現を目指している。

経済産業省の支援のもと、慶應義塾大学、トヨタ自動車、デンソー、日本電気はインターネットを利用したITSの基盤作りおよびその基盤を利用した実証実験を行った **Jump01**。自動車がインターネットに接続された際に登場するであろうサービスの整理や自動車をインターネットに接続する際の運用規定に関する検討をすすめた。実証実験は名古屋地区および川崎地区で行われた。名古屋においては、1570台のタクシーを利用して、事業者アプリケーションの構築、プローブ情報^{注1}の構築、タクシー乗客への情報提供などができることを確認した。また、川崎地区においては70台の一般車両を使って、駐車場における自動決済システムの構築、サービスステーションにおける経路案内などのユーザーサービスシステムが名古屋地区での実験と同じ技術プラットフォーム上で構築できることを確認した。さらに、高機能実験車を1台仕立てて、複数の通信メディアをまたいだシームレスな通信機能の実現やパイロットアプリケーションの実現を試みた。

また、総務省も「動くオフィス」とい

うコンセプトのもと、NTTドコモやトヨタ自動車、KDDIとともにインターネットを使った通信メディアに依存しないサービス環境の実現などの実験を行った。

このように、国家レベルでもインターネットを基盤とした自動車用の情報化環境作りが積極的に推進されている。

ITS標準化の動き

さて、日本ではインターネットを基盤とした自動車用の情報化環境作りが積極的に推進されているが、海外ではどのような動きになっているのであろうか。

現在、ISOにおいては「Internet in Support of ITS」(TC204/WG16/SWG16.2) という分野で自動車のインターネット接続に関する標準化が行われようとしている。より具体的にはメディア間ハンドオフ技術に関して、インターネットに期待している状況である。まだ具体的な議論はほとんど進んでいない状況だが、今後、何らかの標準化の方針が打ち出される可能性が高く、注目したい動きの一つである。

日本が引っ張るテレマティクス事業

このように、日本におけるインターネットITS分野の活動は世界に類を見ない、進んだ活動となっている。情報化社会に自動車がどう食い込んでくるのか。テレマティクス事業の成長は急速に進むのか。いずれにしても、ここ2、3年の国内における事業展開や研究推進が今後のこの分野の発展の鍵を握ることは確かである。

(植原啓介 慶應義塾大学)

Jump01 www.internetits.org

注1 プローブ情報
走行している自動車から、速度や位置などのデータをネットワークを通じて収集し、統計処理などを施して有効に活用する仕組み。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp